

洛北SSHだより

Super Science Highschool

2009年5月8日発行 第1号
・洛北SSHガイダンス
高校1年中高一貫コース
高校1年Ⅱ類文理系
(4月23日(木))

洛北SSHガイダンス

～国際化時代におけるリーダーの育成を目指して～

特別講義 「からだを護る免疫の不思議」

講師 京都大学女性研究者支援センター センター長

京都大学大学院生命科学研究科教授 稲葉カヨ 先生

4月23日(木)、今年度の最初の洛北SSHの事業として、高校1年の中高一貫コースとⅡ類文理系の生徒を対象にガイダンスが行われました。特別講義として京都大学女性研究者支援センターのセンター長で京都大学教授の稲葉カヨ先生から「からだを護る免疫の不思議」というテーマで御講演をいただきました。聴講した生徒たちは女性研究者として第一線で活躍されている稲葉先生の講義に大変興味を持って聴き入っていました。

まず、免疫について知っていることを生徒たちに問われ、何名かの生徒が、自分が聞いたことのあるリンパ球やマクロファージなどをあげました。その後、免疫についての基本的な概念について説明をされました。

花粉症、血液型やAIDSなどの身近な免疫についての事例や自己免疫性疾患についてのモナリザの絵と関節リウマチの例をとともわかりやすいスライドで紹介されました。



また、本校教員よりSSH事業に関する説明として研究開発の内容、教育課程、総合的な学習の時間「サイエンス」、学校設定教科「洛北サイエンス」やSSH事業の年間計画を説明しました。これから行われるSSHのさまざまな行事について、とても関心を持って聴いていました。全国SSH生徒研究発表会の様子をDVDにて鑑賞した後、サイエンス部の種々の活動を紹介し、対外的な発表につながる研究を行いたい生徒はぜひ入部してもらうことを期待して説明をしめくくりました。

Ⅱ類文理系のガイダンスでは、昨年度の筑波サイエンスワークショップに参加した生徒が、その体験を発表しました。筑波サイエンスワークショップとは筑波大学とその周辺にある研究施設を利用した取組で、本校を含めたSSH対象の4校が合同で行っている2泊3日の行事で、毎年高校1年生の5名の生徒が参加しています。筑波大学遺伝子実験センター、高エネルギー加速器研究機構、物質材料研究機構、筑波宇宙センターの4つの施設で行われた各実験はたいへん興味深いもので、参加生徒にとってはとても素晴らしい体験となっています。今回、先輩の話聴いて、自分たちもぜひ参加したいという意欲を高めることができました。

